

読書感想文の書き出し・文の構成の例です。
 をメモで書いて、それから文章を書き始めてみましょう。
 普通スタイル

おわり 結論	なか 本論	はじめ 序論
<p>この本を読んで私は、</p> <p>「この本を讀んで私は、」</p> <p>「こう変わりたい(性格・生活)」</p> <p>「将来、こうなりたい(職業)」</p> <p>「強い意志を持って行動する」</p> <p>「このように、主人公の」</p> <p>「という部分には見習うべき点があります。」</p> <p>「貸しいながらも強く生きる」</p> <p>「貸しいながらも強く生きる」</p> <p>「強い意志を持って行動する」</p>	<p>私がこの本を讀んで特に印象に残った部分は「」</p> <p>「の場面です。」</p> <p>(※場面については状況がわかればよし。)</p> <p>この場面は、「」</p> <p>「と比べると」「」</p> <p>「と」が異なります。</p> <p>「今私」</p> <p>「現代の生活」</p> <p>「比べるものと異なっていること」</p> <p>① もし私が主人公と同じような立場だったら「」</p> <p>「はできないと思います。」</p> <p>② 私には「」という経験があります。これは主人公と同じような状況です</p> <p>「場面について書く」</p>	<p>私は「」</p> <p>「という本を読みました。」</p> <p>本のタイトルが気になった</p> <p>「の教科でやった内容の本だから」</p> <p>この本を選んだ理由は「」</p> <p>「からです。」</p> <p>時代設定</p> <p>場所</p> <p>この物語は「」</p> <p>「の時代で、」「」</p> <p>「という場所の物語です。」</p> <p>例：貧しい家庭に生まれ、</p> <p>主人公は「」</p> <p>「という境遇です。」</p>

ちよつと高度な技を使つてみましょう。

書き出しを印象的に！

最初を主人公の発言や行動で始め、「私だったら」を重ねていきます。

開智塾 読書感想文 構成

はじめ 序論
<p>印象的な主人公の言葉から始める。</p> <p>読む人を「気にひきつけるわりに、その後がつなげやすいです。」</p> <p>例：「もう二度とキミとは会わないよ。」</p> <p>素直な自分の気持ちを書きます。</p> <p>例：これは、主人公「○○」が、ずつとずつと一緒にいた親友と別れるときの言葉です。私はこの言葉を見て驚きました。</p> <p>例置法を使つてみましょう。</p> <p>例：○○は、いつも一緒に居た△△と、離ればなれになります。おとうさんの仕事の都合だから仕方がないけれど。</p> <p>主人公と比べて、私だったらどうするだろう？</p> <p>例：こんなとき、私だったらきつと</p> <p>「○○、また会おうね。」</p> <p>と言つてしまふと思います。</p> <p>次の段落へつなげ、もう少し詳しく書いてみます。</p> <p>例：でも、○○はそうじゃありませんでした。なぜ○○は、私のように思わなかったのだろう。私は、□□の場面をもう一度読んでみました。</p>

このように、文章の書き出しを「えー？」と思うような主人公の発言で始めて見ると、読む人は一気にひきつけられます。

文章技法を使ってみる

どんな文章でも、作者は読者に読んで欲しい、知って欲しい、分かって欲しい、感動して欲しいのです。そのためにいろいろな技術があります。それは読書感想文でも同じ。

※ いつも「私は〇〇と思いました。」の繰り返しは、文章が単調でつまらなくなります。

普通の文章「私はこの言葉を見て驚きました。」

倒置法 「この言葉です、私を驚かせたのは。」(印象的になります)

体言止め 「この言葉を読んだときの私の驚き。」(印象的になります)

短文連発 「この言葉に息が止まる。目は止まらなかつた。また次を読む。また呼吸が止まる。ページをめくる。」(短文の連発はスピード感が出ます)

比喩(たとえ)「この言葉を読んだときの私は、まるで幽霊でも見たかのような恐怖の表情だったことでしょう。」

構成

読書感想文

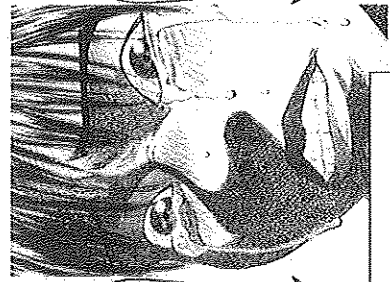
文章は、書き方を少し工夫するだけでも印象的になります。

せっかくですから、文章のなかに出てきた技法を自分で使ってみましょう。

開智塾

読書感想文の書き方 Tips を参考にしながら、「...」の中に思ったことをいれてみよう。
文章の構成の参考にししてネ。(そのまま書かず、書き言葉に直すように！)

「...」
でも、主人公は...
私も、その...



私はこの...
の...に...



私は「...」
という本を読みました。

はじめ
序論

なか 本論



「...」
です。

この...
だから、...
私も...



「...」
主人公は...
という...

この物語は「...」
「...」
という...



物語の中で主人公は「...」
「...」
という...



このように、主人公の「...」
という部分には見習うべき点が
あります。

私はこの感動をみんなにも
味わってほしい。
だから
この本をお勧めします！

おわり 結論